

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570102543		
法人名	有限会社 美大		
事業所名	グループホーム 年輪		
所在地	宮崎市大字恒久5983番地		
自己評価作成日	平成24年8月5日	評価結果市町村受理日	平成24年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JGD=4570102543&amp;SCD=320&amp;PCD=45">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JGD=4570102543&amp;SCD=320&amp;PCD=45</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年9月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者が生を受けた頃は、戦争に翻弄された辛苦の時代であり、皆様の懸命の努力により今日の繁栄を築かれた世代であります。せめて老後が安穩で、平和な日々であって欲しいと願い、精一杯、心のこもった介護を行い、その労に報いたいと思います。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者・職員は、理念、教育、ケアが三位一体となって、利用者がこれまでの生活を維持し、その人らしく最後まで尊厳ある心豊かで安らぎがある生活ができるように、支援している。日常的にオン・ザ・ジョブ・トレーニング方式で、ケアの検討などを全職員が同一線上で話し合い、研さんし、ホーム内の生活基盤にかかわることに全職員で共有しており、いい人間関係を保ちながら、絶妙なチームワークを発揮している。また、発想法を用いて、黙視的な接近法で利用者を見守りながら、動きや状態に合わせた対応を編み出している。その中で、残された力を見出そうとしている利用者と同様に接し、やりがいや楽しみ、希望をもたらす、利用者の自信や誇りをよみがえらせる支援に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	身近な所に掲示し、毎日、始業前には読み上げ確認している。	理念は朝、昼、夕のミーティングで黙読している。全職員の毎月の目標を掲示したり、発想法を用いて目標を掲げ、「家族が親を大切に思っていることを忘れない」と方針を設定するなど、理念を日ごろから遂行している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などに、利用者と職員と一緒に参加している。事業所にも気安く立ち寄ってもらっている。また、近隣のバデイサービスとも交流している。	地域に根ざした和やかな楽しいホームづくりを目指し、近隣の施設、保育園への訪問や一斉清掃、夏祭りなど、常に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についてのアドバイスや、災害時の受け入れなどの準備があることを、屋内・外に掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期に開催し、日頃のケアの報告をするとともに、利用者の声を聞く場を設けている。また、全ての職員にも周知している。	会議では、ホームからの報告や制度の説明、サービス評価などが丁寧に話し合われているが、参加メンバーからの意見が少ない。	会議は、ホームが地域密着型サービスとしての役割を果たすために、地域の理解と支援を得るための重要な会議なので、参加メンバーから率直な意見がでるように働きかけてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の受け入れ、独居の利用者の手続きについての相談などの連携を図り、事業所の姿勢なども伝えている。	市の担当者と日ごろから連携ができており、ホームの相談ごとや利用者のための適切な制度利用について、快く対応してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研究会や職員研修で勉強する機会をつくり、日々のケアで実践している(自由に動ける、カギをかけない)。	全職員が身体拘束の内容と弊害を理解し、拘束のない実践に努め、黙視的な接近法で利用者を見守りしながら安全を確保し、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	OFF・JT、OJTを通じ、虐待について定期的に学習し、利用者の立場で、虐待の痛さを理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、内部研修で学ぶ機会をもつようにしている。2名が成年後見制度利用、1名が成年後見制度申請中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、利用者家族の納得を得た上で契約している。改定時も同様。家族会でも詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時には、家族が話しやすい雰囲気づくりに心掛けている。希望がかなえられるよう、職員全員に伝えるようにしている。	職員は、常に本人や家族等の思いをおもてなしの心で受け止めている。職員のチームワークも発揮できているので、相互の波及効果が得られて、いい関係が生まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行事の組み立てや利用者への対応への工夫など、職員の意見を尊重しながら、アドバイスをしている。意見具申がストレートにできる環境になっている。	オン・ザ・ジョブ・トレーニング方式で、職員相互で高めあい、刺激あつて情報を共有したり、ケアの検討などのほかにも、ホームの生活基盤にかかわることも共有することになっているので、楽しい職場になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの経験や希望などに応じて、アドバイスやシフトの調整など、柔軟に対応している。職員の努力度に応じて、賞与で報いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修の機会をもてるようにし、また、それぞれの力量に合わせて、細かく声かけ・指導してくれている。本年は、認知症実践者研修2名、管理者研修1名、ケアマネ研修1名受講。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療機関の運営する他のグループホームとの交流、勉強会へも参加しており、サービスの見直しにもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の面接時、状況を詳しく聞き、また、グループホームでの生活について伝えている。可能な限り、本人にも事前に見に来てもらい、不安を取り除くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に話し合い、施設での生活を実際に見てもらい、思いを発露しやすい環境であることをわかってもらえるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族はもちろん、元のケアマネ、あるいは医療相談員からも情報をもらい、グループホームでの生活が、その人にとって一番最適かどうか判断し、伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で、出来ない部分での介助はするが、人生の先輩であることを忘れず、時には教えを請うなどして、同じ時間を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いろんな場面で家族にも参加してもらい、交流の機会をつくるとともに、家族との絆が細くなることのないよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも、本人にとってなじみのある方との交流ができるよう、家族の協力を得ながら外出、あるいは訪問してもらえるようにしている。	一人ひとりの利用者のなじみの場所や人を把握して、家族等の協力を得ながら、これまでの生活の継続を支援している。家族と共に墓参り、なじみの病院へ受診するなどの取組をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの状態や相性に配慮しながら、一緒に楽しみ、笑いあって過ごせるようにしている。利用者同士の支え合いもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず、他施設へ入院・入所した方についても、訪問や過干渉にならない程度の支援もしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との信頼関係づくりに努め、自分の思いを出していただけるよう努めている。無理な時は動き、表情など、日頃のケアの中から気付き、受けとれるよう努めている。	利用者の動きや状態に合わせ、寄り添ったケアを行う中で、残された力を見いだし、やりがいや楽しみをもたらす、自信や誇りがよみができる支援を行っている。また、利用者や家族の話にしっかりと耳を傾け、思いを理解するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人、家族、関係機関から詳しく話を聞き、習慣や好みを尊重し、ホームでの生活を楽しめるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通して、全員で状態の把握に努めている。炊事、洗濯、掃除など、その人の残存能力を発揮してもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化に気を配り、本人や家族の思いを聞きながら、皆で相談して、介護計画をつくっている。	諸記録等が簡素化され、適切に記入しており、介護計画と連動している。丁寧な課題分析が行われており、本人や家族の気持ちに沿った介護計画を、全職員で実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は詳しく記録し、全員で共有している。毎月、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師の往診や訪問看護の受け入れ、通院の付き添いなど、必要に応じて対応している。ご家族の悩みなどの相談事にも適宜、応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア及び保育園児、小・中学生や他施設との交流、看護師協会やヘルパー養成機関の研修も受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、本人、家族の希望を優先している。受診時には、日頃の様子を詳しく伝えている(書面、口頭)。状態の変化など、心配のある時はこまめに連絡をとり、安心して過ごしていただけるようにしている。	本人、家族の希望で、納得のいく掛かりつけ医となっている。受診は、必要に応じて付き添いも行っており、普段の様子を状態報告書で伝え、病院からは情報提供書をもらい、連携を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックを確実にし、食事、排泄の状態など、気になるときはホームNSに相談し、必要なときはスムーズに受診できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の生活ぶりなども詳しく病院に伝えている。退院時には、配慮することなどを聞き、スムーズにホームでの生活に戻れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医と今後の見通し、家族の希望などをしっかり話し合い、安心して最後まで過ごせるよう支援している。	重度化や看取りについて、掛かりつけ医と十分に連携を図り、本人、家族に対して、状態の変化に沿って随時、説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、緊急時の対応について研修を行っている。個別の利用者の対応についても、職員間で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、緊急時の対応について研修し、津波等の避難場所を向かいの野崎病院にしている。地域消防団と協議し、応援していただくことになっている。	消防署、地域消防団、地域住民の協力を得て、定期的な避難訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々の価値観や信条を大切にし、言葉遣いに気をつけながら、誇りを傷つけないよう配慮している。	職員は、利用者の自尊心を傷つけないように、謙虚な気持ちで接している。トイレ誘導時は、本人の耳元でささやいたり、失禁等の更衣時も、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で、本人の意思を確認し、希望に添えるよう努力している。自己決定権は、最大限尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目配り、気配りを忘れず、ご本人のペースや希望を尊重し、ホーム側の都合やスケジュールを優先していない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各々の服装や髪形などの好みを把握し、サポートしている。定期的に出張カットの訪問を受け入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ある人は台所で一緒に野菜を切り、ある人は椅子に座って配膳の準備、また、ある人は食後、お盆拭きなど、その人その人に合わせて一緒に行っている。	職員は、利用者と一緒に菜園で取れた野菜等を調理するなどして、できる能力を引き出す支援を行い、音楽が流れている中で、楽しく食事をしている。利用者の状態に合った食事形態も工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、不足しないよう注意している。嚥下状態に合わせた食事形態、本人の嗜好の尊重など、個別にきめ細かく対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、見守り、一部介助、全介助と、その人のできることを見極め、毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の様子から早めに誘導したり、間に合わない人は、タイミングよく着脱介助するなど、安易にオムツの利用をしないようにしている。	利用者の生活リズムに沿った排せつ支援を行っている。日中はリハビリパンツを使用し、トイレでの排せつや尿失禁を減少するため、対症療法や環境整備に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないよう、野菜の献立を多くし、なるべく体を動かしてもらえよう気をつけている。その上で排便記録をつけ、状態を常に把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否のある人は無理強いすることなく、声かけの工夫や時間をずらしたりして対応している。その人の状態に合わせて、別の時間帯に入浴介助するようにしている。	無理強いをせず、利用者を見守りながら、動きやその日の体調、気分に合わせて、歌や本人の好きな話をしながら、楽しく入浴できるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の体力や睡眠のリズム及び、その日の体調に応じて休息をとってもらうなど、本人をよく観察して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報や気をつけることなどが、すぐわかるようにしている。ホームの正看護師に指導を受け、薬の作用等を理解し、症状に気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩したい人、買い物に行きたい人、一緒に家事をしたい人、それぞれの希望がかなうよう、連携をとりながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅に帰りたい人は家族の協力を得て、買い物をしたい人は受診時を利用してなど、それぞれの状況に合わせて、外出の機会を作るようにしている。	利用者の自宅がホーム近くにあるので、ほかの利用者と一緒に出かけたり、家族や職員などを玄関先まで出迎えて、外に出る機会を多くしている。重度の利用者と一緒に、ウッドデッキで日光浴や周りの自然を見たり、田畑で作業中の近隣住民にあいさつをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望する方には、高額にならない範囲で自己管理できるようにし、受診時などを利用し、買い物を楽しめる機会をつくっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時は、施設の前の公衆電話からかけられるよう支援している。便せんを用意するなど、手紙が書けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、四季の花やおひな様、端午の節句の鯉のぼりタペストリーを飾り、季節を感じてもらっている。また、害虫駆除を業者に依頼し、不快な環境にならないよう注意している。	ホールの窓際に、利用者が可愛がっていた鳥の小屋が作られており、心地よい鳴き声が聞こえる。居室は、失認への分かりやすい目印の工夫や窓からは自然の移り変わりが眺められる。尿臭についても、職員が知恵を出し合い、検討している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々の相性や趣味に配慮して、椅子の配置を決め、他の人と仲良く触れ合えるようにしている。その時々々の体調や感情の動きに気を配り、楽しく過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各人の部屋がわかるように、表札や飾りを置き、なじみの家具や自作の絵、ぬいぐるみを置くなど、その人らしい部屋になるようにしている。	利用者のこれまでの生活の継続を支援するため、なるべく違和感のないように、落ち着いた過ごせる部屋づくりに努め、感謝状や似顔絵などを壁に貼って、利用者の意欲、安心感への配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームはバリアフリーであり、随所に手すりを付けて、安全面に配慮している。部屋毎の表札、似顔絵、トイレ、洗面所には大きな表示をして、すぐわかるようにしている。		